

## 4. 養殖漁業振興事業費

### 1) 養殖水産動物保健対策推進事業

山本充孝・二宮浩司

【背景】本県ではアユ養殖を中心にマス類、コイ類の淡水養殖業が発展してきているが、魚病の被害が依然多発している。

【目的】養殖業における魚病被害の軽減と予防を図り、養殖経営の安定化と安全な食品生産に寄与する。

#### 【成果概要】

1. 全国魚類防疫推進会議（10月30日、3月20日）
2. 滋賀県魚類防疫会議（5月16日）
3. アユおよびニジマスのピブリオ病に係る防疫協議会（5月16日）
4. 魚類防疫講習会（2月19日）
5. 平成9年度魚病指導総合センターにおける魚病診断状況（表1）
  - ①アユ：平成9年度の診断件数は80件と昨年度の59件と比べて増加した。
  - ②コイ・フナ類：平成9年度の診断件数は10件と昨年度の8件と比べて若干増加した。

外部寄生虫症（トリコディナ・カラムナリス等）多く診断された。

- ③マス類：平成9年度の診断件数は14件と昨年度の24件と比べて減少した。IHN、せつそう病が多く診断された。

#### 6. 医薬品残留総合点検

##### ①精密検査〔（財）滋賀県薬剤師会に検査を委託〕

ア ユ：フロルフェニコール 20検体＝7業者（残留なし）

ニジマス：オキシリン酸 10検体＝4業者（残留なし）

##### ②簡易検査（水産試験場で実施）

ア ユ： 14検体＝7業者（残留抗生物質検出せず）

ニジマス： 10検体＝4業者（残留抗生物質検出せず）

【成果の活用】魚病発生時に原因の究明、薬剤感受性等魚病診断を実施し、その結果を速やかに伝達することにより魚病被害の軽減を図っていく。

滋賀県魚病指導総合センターにおける平成9年度魚病診断状況 (診断件数)

項目		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	
ア ユ	ビブリオ病						1	1							2	
	ナグビブリオ病															
	冷水病	1	2	6	4				1		7	7	3	5	36	
	細菌性鰓病													1	1	
	連鎖球菌症															
	シュードモナス症	4	1	1	3			1				6	4	6	26	
	シュートモナス症+冷水病				1									1	2	4
	冷水病+ギロダクチルス症														1	1
	エロモナス症															
	エロモナス症+冷水病															
	カラムナリス病						1									1
	その他細菌性疾病															
	水カビ病															
	真菌性肉芽腫症								1							1
	グルゲア症															
	杯頭条虫症						1	1								2
	ギロダクチルス症															
トリコディナ症																
その他の外部寄生虫症																
不明						6					1				7	
小計		5	3	8	14	3	3	1		8	13	8	15		81	
コイ・フナ類	運動性エロモナス病															
	カラムナリス病							1							1	
	わたかぶり病															
	水カビ病															
	外部寄生虫症				2			1							3	
	スレ															
	不明		1				3	1						1	6	
小計			1	2		3	3						1	10		
マス類	IHN	2	1			1									4	
	ウイルス性疾病							1					1		2	
	ウイルス性疾病+イグチオフォス													1	1	
	冷水病															
	せつそう病				2				1						3	
	せつそう病+連鎖球菌症								1						1	
	細菌性鰓病															
	カラムナリス病															
	水カビ病															
	外部寄生虫症															
	連鎖球菌症					1		1							2	
不明	1													1		
小計	3	1	2	1	1	1	2	2				1	1	14		
合計	8	5	12	15	7	8	3	0	8	13	9	17		105		